

第2回ダムWG会議（2004.7.18開催）結果報告

2004.7.23 庶務発信

開催日時： 2004年7月18日（日）13：30～19：30

場 所： キャンパスプラザ京都 第1会議室

参加者数： WGメンバー委員 19名、WGメンバー外委員 3名 河川管理者 29名

1 主要な決定事項

- ・ ダムWGでは、周辺の調査結果は省略して、直接、本論に入るようにする。
- ・ 具体的には、最初に「ダムの目的、必要性の検討」、次いで「代替案についてあらゆる角度から検討」、最後に「比較検討」を行う。
- ・ 次回のダムWG（7月25日、13:30～18:00）の開催前の10:00から、委員のみでの意見交換の場を設ける。

2 審議の概要

調査検討に係る報告

琵琶湖環境について（資料1-1、1-2、1-3をもとに）

河川管理者（琵琶湖河川事務所）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 環境の話は充実しているが、3ダムが関係する琵琶湖関連の調査としては、ダムとの関連性は明確でない。

現時点で、琵琶湖がどう変化しているのかと、どの原因を幅広く検討している段階で、今後は総合的に評価していく予定である。

- ・ 水位の急速な低下の問題は、理解している。そのところは省略して本論に入るようにして欲しい。重要との認識があれば、直接的な部分から進められる。

説明の途中で、サブリーダーの3名と河川管理者で、全体の進め方について相談した。

- ・ 相談結果であるが、河川管理者の考え方とダムWGの考え方に、多少、乖離があると感じた。これから全力で検討を進めたい。今時点の検討結果をご報告して、キャッチボールをさせて欲しいという趣旨である。

- ・ スケジュールをきちんと示されれば、安心して聞くことができる。管理者はどう考えるのか。どの時期にどのくらいのもので出せるのかは、書けるようにしたい。

丹生ダムに係る報告（資料2-1、2-2をもとに）

河川管理者（琵琶湖河川事務所）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 高時川は琵琶湖に影響がないというのは、乱暴である。影響があるが、観察できないということではないか。
- ・ 高時川は、ダムがあっても計画高水位を超え、堤防強化が最優先されないと、住民不安は解消されず、このことは強調して言うべきである。

治水に関しては、滋賀県とともに考えているところで、流域住民の安全を守るため、コスト面、時間的にみて何が効果的かを考えていきたい。

- ・ 利水については、疑問に思っている。

大戸川ダムに係る報告（資料3-1、3-2をもとに）

河川管理者（大戸川ダム工事事務所）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 前の委員会と同じ説明だった。問題は大戸川をどうするかである。

他に5つの項目の検討が残っている。琵琶湖の水位低下抑制のための大戸川ダムからの放流による効果と、その自然環境に及ぼす影響については、丹生ダムとともに検討する。大戸川ダムは大戸川下流や淀川下流の治水にも有効であると考えており、治水について引き続き検討していく。また、利水については、他のダムとともに検討していく。

- ・ 前回の説明でも、ダムからの放流量を150トン/sとしているが、これは限界の放流量として生きているのか。

日吉ダムでは、従前に10～40年に1回の洪水に対する最適な放流量が検討されており、それに基づいて現行の操作が行われている。

天ヶ瀬ダム再開発に係る報告（資料4-1、4-2をもとに）

河川管理者（琵琶湖河川事務所）より説明がなされた。

- ・ 琵琶湖の水位が2.9m高くなるということは、何もいらぬということか。また、それぞれの対策は、独立の対策なのか。

ダム本体の放流能力も変化するが、だめな場合は、トンネル方式の放水路も必要となる。基本的には、使えるものは全て使って多く流したい。

- ・ 本日のWGの検討内容は、琵琶湖総合開発との関連があるが、新たにもう1回、治水、利水をやり直そうというように聞こえる。
- ・ 琵琶湖の水位操作の問題を解決しないといけないのではないか。

水位の前提を変えると、様々なものが白紙となる。見直す必要があれば議論すべきと考えるが、まずは、現状をベースとして琵琶湖の環境改善の方向性と改善策について検討を行っている。

- ・ 予備放流は難しいという結論があるなど、反発を感じている。

今後の検討の進め方について

委員長より、委員からの提案を踏まえて以下の提案がなされ、この方向で検討することとなった。

- ・ 最初に「ダムの目的、必要性の検討」、次いで「代替案についてあらゆる角度から検討」、最後に「比較検討」を行ってはどうか。

その他、主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 委員が変わるまでに結論を出さないといけないのか。

調査検討を一生懸命やっているところで、継続的にキャッチボールさせて欲しい。

- ・ 委員長からスケジュールの話があったが、検討結果が出ていなくてもダムWGとして意見を出すのか。

目的に対しては検討できる。代替案は、検討結果が出た範囲でやらないといけない。サブWGを実施してからダムWGという手順を考えると、全体の意見交換まで進むかどうか。

次回の午前中に相談させて欲しい。3つのグループが、それぞれ検討して欲しい。

以上

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発

信させていただくものです。